

PS 687/JAF

D4

35 F 52

日本國政府

實用新案公報

實用新案出願公告

昭26-5287

公告 昭 26.5.30 出願 昭 24.8.6 實願 昭 24-12239

出願人 考案者 明 智 政 長 大宮市上小町478

代理人 辨理士 相 川 正 次 郎

ボン煎餅機に於ける焼棒押壓装置

圖面の略解

図面は本案を示す側面図なり

實用新案の性質、作用及効果の要領

本案は2枚の焼棒1を重ねて其の中に材料を入れ之を押壓状態の下に加熱し次で急に其の押壓を弛めて煎餅を作る所謂ボン煎餅機に於て焼棒1を押壓する装置に關す即ち押杆2を本體3に固定せる案内筒4に緩衝し其の上端に連杆5の一端を抵着し本體3の上部に固定せる軸受6に横杆7の中部を抵着し其の先端に連杆5の他端を抵着し本體3の下部に固定せる軸受8に足踏杆9の中部を抵着し其の先端を連杆10を介して横杆7の末端に連絡す11は押杆2の引上用バネにして12は押杆2下端に螺合せる調整ネジなり本案は足踏杆9を足にて押下ぐる時は連杆10を介して横杆7の末端を押上げ連杆5を介し押杆2を押下し焼棒1を押壓するものなり

一般にボン煎餅機に於ては把輪を手にて回轉しネジを利用して焼棒1を押壓し焼棒1内の材料が焼ける迄此の状態を保持する必要あり而して焼棒1内には高き蒸氣壓が発生するため押杆が押上げられ従つてネジが逆轉せんとするため手に力を入れて把輪を保持するを要す此のため手が疲勞するのみならず此の時間中は他の仕事を爲し得ざる缺點あり

本案は押壓状態に於ては連杆5横杆7の3極軸が略一直線となることによりて外部より力を殆んど加へざるも押壓状態を保持し得而も押壓する場合には押壓の終期に於て比較的輕くて強力に押壓

し得以て押壓を確實になし且押壓中に於ても手を自由に使用し得る便あり而も調整ネジ12にて押杆2の全長を調整する爲リンクのみにて強力なる押壓作業を確實に確行し得るものなり

登録請求の範圍

図面に示す如くボン煎餅機に於て押杆2に調整ネジ12を螺合し押杆2に連杆5の一端を抵着し其の他端を横杆7の先端に抵着し足踏杆9の先端を連杆10を介して横杆7の末端に連絡したる焼棒押壓装置の構造

